2012 年 1 月から 2013 年 12 月の間に京都大学病院呼吸器外科で原発性肺癌の手術をされた患者さんへ

高分解能質量顕微鏡(iMScope)を用いた肺腺癌標本切片の評価

近年、癌の増殖や進展、分化と脂質代謝変化の関連性が指摘されており、肺癌においても同様です。肺癌の組織は腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小細胞癌に大別されますが、その中で最も多い割合を示すのが腺癌です。そしてその腺癌の中でもさらに細かく分類されており、その分類と予後は関連します。そのため我々は、それぞれの組織形態で脂質分布の差異が生じている可能性があるのではないかと考えております。

高分解能質量顕微鏡(iMScope)は調べたい組織切片上に細かく連続的にレーザ照射することによって発生したイオン化物を質量分析計でマススペクトルとして収集し、得られたデータから位置情報と信号強度を使って平面的に画像化を行なえる装置です。質量分析計で測定された分子の分布を質量(MS)イメージング画像とすることができます。

前立腺癌や乳癌では実際に、高分解能質量顕微鏡(iMScope)を用いてその脂質分布を比較、分析し腫瘍の増殖、進展との関連を示されています。今回我々は高分解能質量顕微鏡(iMScope)を用いて肺腺癌組織に生じている微小環境の変化、脂質分布を網羅的に調べることを考えています。臨床病理学的所見との相関を検証し組織像により発現する脂質の分布傾向があきらかになれば、新たなバイオマーカーの発見や予後因子を規定する脂質代謝の発見につながる可能性があるのではないかと考えています。

そのため、京都大学呼吸器外科(研究責任者:京都大学医学研究科呼吸器外科学教授　伊達洋至、情報管理責任者:京都大学医学部附属病院呼吸器外科講師　毛受暁史)では原発性肺癌手術を受けた、2012 年 1 月より 2013 年 12 月までに当施設にて外科的治療を受けていただきました患者さんのうち今回30 人の電子カルテに記載されております臨床データ、および高分解能質量顕微鏡(iMScope)を用いた肺腺癌標本切片の分析解析結果を利用させていたいと考えています。研究期間は 2016 年 1 月25 日より 2022年 3 月 31 日を予定しています。

この研究データは通常診療を受けていただく際に検査、記録された臨床データに加え、すでに手術時に採取された肺組織を使用するものであり、特別に追加で採血や検査費用など患者さんに御負担いただくものではありません。また、肺組織に関しましても、病理目的外使用同意書に術前同意いただいた患者さんのもののみを使用させていただきます。患者さんは匿名化され、プライバシーは保護されています。患者さんには臨床データ、組織切片利用の目的と趣旨をご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。今回の研究への不参加を希望されても患者さんの方に不利益は生じません。研究に関する資料の入手・閲覧を希望される場合は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲内で可能ですので、この臨床研究に対してさらに説明を希望される方、また個人の臨床データのデータベースへの収集および肺組織検体の臨床研究への利用を拒否される方は担当医師または当科データベース管理担当者(玉里滋幸:(代)075-751-4975 Email: sgyktlb@kuhp.kyoto-u.ac.jp)までお申し出ください。

また本研究対象者等からの相談等は病院窓口として「京都大学医学部附属病院　相談支援センター（Tel)075-751-4748

(E-mail)　ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

もご利用いただけます。また、本研究は、運営費交付金を研究の資金源としており、特定の企業からの資金提供を受けておりません。本研究の実施にあたり、利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー『京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査しています。

本研究は京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施しております。